

【資 料】

## 明治前期の芸娼妓関係判決（補遺6）

村 上 一 博

目 次

はじめに

【A】芸娼妓関係判決一覧（判決言渡年月日順）

【B】判決例の翻刻

①～⑩ ……第 89 巻 1 号

⑪～⑳ ……第 89 巻 2=3 号

㉑～㉒ ……本号

### 明治 22 年

㉑ 「押印請求事件」（名古屋始審裁判所、M22・02・01 判決）

明治 22 年第 6 号

裁判言渡書

原告人愛知県尾張国名古屋区席貸業片岡マキ方寄留平  
民出稼娼妓

水 谷 ヒ サ

被告人愛知県尾張国名古屋区平民貸席業片岡マキ留守  
引受人

愛知県尾張国名古屋区片岡マキ方寄留平民農

牛 田 敬三郎

原告水谷ヒサヨリ被告片岡マキ留守中引受人牛田敬三郎ニ対スル押印請求事件ヲ  
審理シ原告人及ヒ被告代人ノ陳述ヲ聴クニ

原告人陳述ノ要旨ハ明治廿一年七月中被告片岡マキ方ニ出稼娼妓トナリシ娼妓  
出稼ノ醜業ヲ廃シ正業ニ就キ負債金九拾五円六十九錢九毛ハ廃業後返済ス可キニ

依り被告ニ対シ娼妓廃業届出ニ連名押印ヲ請求スルニ被告ハ之ヲ抗拒スルヲ以テ明治廿一年十二月十五日勸解ヲ出願シタレトモ明治廿二年一月十日遂ニ不調トナリタルヲ以テ本訴ヲ起シ廃業届ニ連署請求スルト云フニ在リ

被告代人答弁ノ要旨ハ被告ハ元來乙第一号第二号証ノ如ク明治廿一年七月中原告ノ求ニ応金八拾五円ヲ貸与シ乙第三号証ノ如キ方法ヲ以テ返済セシムル契約ヲ為シタルモ今日猶ヲ乙第四号証ノ如ク金九拾五円六拾九銭九毛ノ負債返済ヲ受ケサル以上ハ原告ノ請求ニ応スルノ理由ナク且ツ貸付元金八拾五円ノ半額則チ四拾二円五十銭ヲ一時ニ返済シ残額ハ一ヶ月一円ノ月済ヲ為スニ於テハ速ニ押印ス可キモ原告カ之ニ応セサルヲ以テ本訴原告ノ請求ニ応スル能スト云ニ在リ

依テ各証拠書類ヲ審閲シ説明スル左ノ如シ

原告カ娼妓出稼ヲ為ス際被告ヨリ金額ヲ借り営業ニ依テ得ベキ利益ヲ以テ其返金ニ充ツルトノコト之ヲ認諾スルハ原被双方ノ拳ケタル各証拠トニ依リ明瞭ナリ而シテ被告ハ原告ノ娼妓営業ヲ以テ其貸金ノ抵当トシ原告カ約束ノ如ク貸金ノ返済ヲ為サザル以上ハ廃業届ニ連署セズト主張スレトモ娼妓営業ハ原告ノ行為ニ関シ其行為ハ本人ノ意思ニ関スル醜業ニシテ之ヲ金額貸借ノ抵当物件ト為スヲ得サルコトハ明治八年第二百拾八号布告ノ規定スル所ナレハ被告ノ答弁ハ甚タ不当ナリトス右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

被告片岡マキ代人牛田敬三郎ハ原告ノ請求スル娼妓廃業届書ニ連署調印ス可シ訴訟入費ハ被告之ヲ負担ス可シ

明治廿二年二月一日名古屋始審裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡スモノナリ

名古屋始審裁判所

判事試補 福 井 清 石<sup>㊟</sup>

裁判所書記 寺 沢 清之丞<sup>㊟</sup>

㊟ 「身代維持取扱結婚契約違背ニ生スル損害請求ノ訴訟」(名古屋始審裁判所、M22・03・14 判決)

明治 22 年第 23 号

裁判言渡書

原告人愛知県三河国東加茂郡平民材木商

大 森 祐 介

被告人同県尾張国海東郡平民染物職

山 羽 ミツエ

同 同県尾張国海東郡平民染物職

服 部 半三郎

同 同県三河国額田郡席貸営業三浦権三郎方寄留平  
民娼妓営業

服 部 キ ン

右代言人同県同国名古屋区栄町四丁目四十一番戸土族  
富 田 守 是

右大森祐介ヨリ山羽ミツエ外二名ニ係ル身代維持取扱結婚契約違背ニ生スル損害  
要償請求ノ訴訟ヲ審理シ双方ノ陳述ヲ聴クニ

原告陳述ノ要旨ハ原告ハ明治廿一年八月七日三河国岡崎伝馬町席貸茶屋三浦権三  
郎方ニ登楼シ被告キンヲ招キ始メテ知合トナリ其後四五度モ相招キタル末同月廿  
六日キンヨリ突然夫婦タランコトヲ懇請スルニ依リ同年十一月二日キント同伴シ  
テキンノ父ナル被告服部半三郎方ヘ相越シ双方協議ノ上夫婦トナルノ契約ヲ遂ケ  
而シテキンハ明治廿二年一月限り廃業スルコトニ約シ又キンノ父母即チ被告半三  
郎ミツエハ老年ニシテ其相続人タルベキ「キン」ノ実弟浜太郎ハ未丁年ナルニ付身  
代維持ノ方法ヲ被告共ヨリ原告ヘ依頼セリ依テ出先ハ之ヲ諾シ其後ハ被告半三郎  
方身代維持ノ為メ総テ半三郎ト名古屋ノ太物商山内勘助トノ間ニ差纏レ居ル証書  
取戻ノ件其他掛合中半三郎ハ甲一号証ノ如ク被告ニ総理代人ヲ委シタルヨリ原告  
ハ被告ノ為メ専ハラ尽力中明治廿二年一月廿五日ニ至リ被告共ハ突然前約即夫婦  
契約ヲ破リ原告ノ取扱ヲ拒絶シタリ然ルニ原告ハ右身代維持方取扱及ヒキント結  
婚契約ノ為メ訴状標記ノ如ク金百円ヲ消費シ之レ全ク被告共カ破約ニ依テ原告ノ  
損害トナルニ付其要償ヲ求ムル為メ本訴ニ及ヒタリ然ルニ被告共ハ夫婦契約セシ  
コトナク且甲一号証ニ対シテハ乙一号証ノ如ク反証アリト云フモ夫婦タルノ契約  
アリシコトハ甲二号乃至七号証及ヒ甲一号証ニ依テ明瞭ナリ乙一号証ノ如キハ甲  
一号証成立以前ノモノニシテ決シテ反証トナルヘキモノニアラスト云フニ在リ  
被告代言人答弁ノ要旨ハ被告ノ内キンハ数年前ヨリ三河国岡崎ニ於テ娼妓営業ヲ  
為シ居ル処明治廿一年八月頃原告ニ招カレ始テ知合トナリ爾來懇意ニ相成中原告  
ハ代書等ヲ為ス人ナルコトヲ聞知セシヲ以テ予テ父半三郎ハ名古屋ノ山内勘助ナ

ル者へ差入リアル金百五十円ノ古証書ニ付大ニ困難シ居ル旨ヲ相噺シタル処原告ハ之ヲ取戻シ遣ハスト云フニ依リ其後津島神社遷宮ノ際キンハ原告ト同伴シテ参詣ノ序共ニ在所ニ相越シ其際「キン」ハ原告ヘ山内勘助方ノ証書取戻方依頼セシコトヲ半三郎ニ相噺シタルヨリ半三郎モ依頼シ置キタル処其後原告一人半三郎宅ニ来リ右証書取戻ノ件ヲ掛合ヒ遣ハスト云フニ依リ半三郎ニ於テハ原告カ「キン」ト懇意上厚意ヲ以テ尽力シ呉ル、コトト考ヘ尚ホ取戻方ヲ依頼セシニ原告ハ一旦山内ニ掛合ヒ尚又来リ容易ニ調ハサルニ付此ノ上ハ訴訟スルヨリ他ニ途ナク就テハ半三郎ノ財産ハ要慎ノ為メ妻ミツエノ名義ニ附換置ク方然ルヘクト云フニ依リミツエハ原告ヲ代人トシ半三郎ハ倅浜太郎ヲ代人トシ津島登記所ニ於テ半三郎ノ家屋ヲミツエ名義ニ附換而シテ原告ノ請求ニ依リ半三郎ハ甲一号証ナル委任状ヲ与ヘタレトモ該委任状ハ万事委任セシ如ク見ルヲ以テ山内事件ノミノ委任ナルコトヲ証スル為メ追テ乙一号証ヲ取置キタリ右ノ事実アルノミニテ固ヨリ夫婦契約ヲ為シタルコト更ニ之レナク甲三号乃至七号証ハ被告「キン」カ原告ノ寵愛ヲ受ルヨリ来遊ヲ促ス為メノ艶書ナリ又甲二号証ハ被告ミツエカ送りタルモノニアラス良シ「ミツエ」カ送りタルモノトスルモ夫婦契約ヲ証スヘキモノニアラス要スルニ原告ハ厚意ヲ以テ山内勘助ヘ係ル証書取戻ヲ掛合ヒ呉レタル迄ナレハ被告三名ハ本訴ノ要求ニ応スヘキ道理ナシト云フニ在リ

依テ各証拠ヲ審閲シ双方ノ弁論ヲ聴キ説明スル左ノ如シ

原告カ提供スル甲号証中甲三号乃至同七号証ハ被告キンカ原告ヘ送りタル艶書ニシテ甲一号証ハ被告半三郎ヨリ原告ヘ或事件ノ委托ヲ為シタルノ委任状ナレハ此等ヲ以テ結婚契約アリシモノトハ看認メ難シ要スルニ原告ノ陳弁ハ総テ口頭ノ陳弁ニシテ他ニ拠ルヘキ確タル証左ナキニ依リ原告ノ請求ハ不当ナリトス  
右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求不相立モノトス

訴訟入費ハ原告ニ於テ負担スヘシ

明治廿二年三月十四日名古屋始審裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡スモノ也

始審裁判所判事代理

治安裁判所判事 鈴木久良<sup>㊟</sup>

裁判所書記 寺沢清之丞<sup>㊟</sup>

38 「貨物品取戻請求事件」（名古屋始審裁判所、M22・03・21 判決）

明治 21 年控第 52 号

裁判言渡書

控訴人愛知県名古屋区平民無職業伊藤カギ相続人

伊 藤 ト ク

後見人全県全区平民

佐々木 満寿吉

被控訴人全県全区平民矢野トミ方全居平民娼妓営業

林 ト ク

代言人全県全区南外堀町百九十番戸寄留東京府平民

松 原 三 中

右伊藤トクヨリ林トクニ係ル貨物品取戻請求事件ノ訴訟名古屋治安裁判所ノ為シタル裁判ニ服セスシテ伊藤トクヨリ控訴ヲ為シタルニ依リ之ヲ受理シ双方ノ陳述ヲ聴クニ

控訴代人陳述ノ要旨ハ控訴人ノ母伊藤カギカ明治十八年十一月席貸茶屋営業中被控訴人ハ当時名古屋区若松町枕水樓事矢野トミ方ニ在テ娼妓営業セシヲ安田清助外一名ノ周旋ニ依リ枕水樓ヘノ借金返済ニ充ツル金額ハ控訴人ヨリ之ヲ出シ当時新梅本事控訴人方ヘ出稼替スルノ約定ヲ結ビ席貸業者間ノ規約背戾ヲ避クル為メ一旦廃業ノ上更ラニ娼妓鑑札ヲ受ケ戸籍ヲ控訴人方ヘ移スコトトシ之カ為メ其郷里伊勢ヘ帰ル際珊瑚珠附ノ簪ヲカギ後見人諏訪忠知ヨリ安田清助ノ手ヲ経テ被控訴人ニ貸与ヘタル処其伊勢ニ帰ルヤ戸籍移送ホノ手續ハ施サス何所ヘカ身ヲ隠クシ貸与ノ簪ハ今日マテ其俣返還セサルモノナルニ被控訴人ハ之ヲ忠知ヨリ贈与ヲ受ケタルモノト称シ他ニ売却シタル由ニ付キ其見積代金二十円ノ返還ヲ受ケ度シト云ヒ甲第一号証ヲ提供セリ

引合人諏訪忠知ハ控訴人ト同一ノ陳述ヲ為セリ

被控訴人陳述ノ要旨ハ被控訴人カ以前枕水樓事矢野トミ方ニ於テ娼妓營業中其隣家ニ在テ席貸業ヲ営メル控訴人ノ祖父ニシテ全居ノ諏訪忠知被控訴人ニ馴染ミ情交親密ナル際被控訴[人]カ指シ居リタル簪ハ真ノ珊瑚珠ニ非ラサレハ真正ノ珊瑚珠ノ附キタルモノヲ与フルニ付キ放擲スヘシト云ヒ本訴ノ簪ハ安田清助ノ手ヲ経テ忠知ヨリ贈与ヲ受ケタルモノニシテ控訴人ノ主唱スル如ク控訴人方ヘ登録替スル

約ヲ結ヒ送籍ノ手續ヲ尽ス為メ帰郷スルヨリ控訴人ヨリ借受ケタルモノニ非ラス  
シテ乙第一号乃至八号証ヲ提供セリ

依テ各証拠ヲ審閲シ引合人ノ陳述ヲ聴キ説明スルコト左ノ如シ

被控訴人ノ認メサル甲第一号証ハ信濃屋卯八ヨリ伊藤カギニ宛テタルモノニシテ  
全号証ニ記載スル簪果シテ被控訴人ノ受取りタルモノナルコトヲ証スルニ足ラス  
良シ全一ノ簪ナリトスルモ引合人安田清助ハ受授ノ原因ハ知ラサレトモ本件ノ簪  
ハ被控訴人カ以前枕水楼ニ在テ娼妓營業中忠知ヨリ受取り之ヲ被控訴人ニ渡シタ  
リト云ヒ其陳述ハ真實ナリト認メ得ラレ又タ乙第四号第五号証ヲ以テ忠知并ニ被  
控訴人ノ間情交親密ナリシコトヲ証スルニ足ル是ニ由リ之ヲ觀レハ被控訴人カ控  
訴人方ハ登録替ノ約ヲ結ヒ一旦帰郷ノ際控訴人カ本訴ノ簪ヲ貸与シタリトノコト  
ヲ信スルニ足ラス既ニ然レハ本訴ノ簪ハ控訴人ノ提供スル証拠ヲ以テ其所有權控  
訴人ニ在ルトノコトヲ証スルニ足ラサルノミナラス却テ忠知ヨリ被控訴人ニ贈与  
シタルモノト認ム

右ノ理由ナルニ付キ他ノ証拠ハ説明ヲ要セサルヲ以テ之ヲ説明セス判決スルコト  
左ノ如シ

明治二十一年十月二十五日名古屋治安裁判所カ言渡シタル裁判ハ取消スヘキ筋ナ  
シ依テ控訴人ノ請求不相立モノナリ

訴訟入費ハ始終審共控訴人ノ負担タルヘシ

明治二十二年三月廿一日於名古屋始審裁判所終審ノ裁判ヲ言渡スモノナリ

始審裁判所判事 掛 下 重次郎<sup>㊤</sup>

裁判所書記 寺 沢 清之丞<sup>㊤</sup>

㊤ 「買取品請求ノ詞訟」(本所区治安裁判所、M22・05・17 判決)

明治 22 年第 198 号

飯田<sup>㊤</sup>

裁判言渡書

東京府浅草区平民雜業

原告人 尾 澤 フ ミ

右代人全府全区平民雜業

大 関 道太郎

全府深川区平民無職業

被告人 青 山 ト ヨ

右代人全府深川区平民

小 西 利 富

全府京橋区平民芸妓屋営業

被告人 山 口 長 平

右代言人全府京橋区南大工町九番地平民

浅 見 芳太郎

右尾澤「フミ」ヨリ青山「トヨ」外一名ニ対スル買取品請求ノ詞訟審理ヲ遂クル処原告代人陳述スル要旨ハ原告ハ被告青山「トヨ」カ山口長平方芸妓出稼廃業ノ際青山「トヨ」所有ノ物件甲号証拠物ノ通り買取りタル処其日本珊瑚珠五分珠、火吸玉根掛ノ二点ハ受取りタルモ残ル十五点ハ引渡サス山口長平ニ於テハ謂ハレ無ク物件ヲ引留メ置クニ依リ青山「トヨ」ニ於テハ速カニ物件引渡ノ手續キヲ為サレ度山口長平速ニ物件ヲ引渡サレ度被告間ノ争点ハ原告ニ於テハ物件買取ト全時ニ売買物ノ所有者ト為リタルモノニシテ原告請取ニハ関係ナケレハ請求通り引渡ヲ受ケ度シト云フニ在リ

被告青山「トヨ」代人陳述スル要旨ハ被告ハ原告甲号証ノ通り物件売渡シタルニ付物件ハ引渡シタキニ山口長平ニ於テ物件ヲ引留メ渡シ呉レサルニ依リ直ニ原告ノ求メニ難応相被告山口長平ハ前借金ノ抵保物ナリト供述スレトモ前借金ハ廃業ノ際物件ノ売却金額ヲ以テ丙号証ノ如ク金五拾円差入レ前借金ニ付テハ別途ニ差引ヲ附ス可キモノニシテ本件之物品ニ関係ナケレハ相被告ヨリ物件ヲ引渡サレ度シト云フニ在リ

被告山口長平代言人陳述スル要旨ハ被告ハ相被告青山「トヨ」物件ハ被告ノ家屋ニアレトモ被告ト相被告青山「トヨ」トハ乙号証ノ如ク前借金ヲ以テ芸妓営業ヲ為サシメタリシモ廃業ノ際前貸金相済マサルヨリ物品ハ其係被告ノ家屋ニ留置モノニテ丙号証ハ乙号証ノ内金トシテ受取りタレトモ物件ハ前貸金ノ抵保物ナレハ前借金相済マサル間ハ該物件ハ引渡シ難ケレハ直ニ原告ノ請求ニハ難応ト云フニ在リ因テ右証拠ヲ閲シ原被告ノ供述ヲ徴シ説明スル左ノ如シ

被告山口長久代言人ニ於テハ青山「トヨ」物件ハ被告ニ家屋ニアレトモ青山「トヨ」トハ乙号証ノ如ク前貸金ヲ以テ芸妓営業ヲ為サシメタリシモ廃業ノ際前貸金相

済マサルヨリ物件ヲ其保留置クモノニテ前貸金ノ抵保物ナリト供述スト雖トモ相被告青山「トヨ」ニ於テ物件ハ甲号証ニ通り売渡シタルモノニシテ相被告山口長平ノ前借金ハ廃業ノ際物件ノ売却金額ヲ以テ丙号証ノ如ク金五拾円差入レ前借金ニ付テハ別途ニ差引ヲ附ケ可キモノニテ本件ノ物件ニ係関無キ旨供述シ丙号証ヲ提供スルヲ以テ各証拠書類ニ徴スルニ被告提供スル乙第一号証ハ山口長平カ青山トヨニ対スル前貸金ノ証ナレトモ芸妓出稼ノ為メ約定貸金証タルニ過キスシテ乙号証全文ノ文詞ニ徴スレハ青山「トヨ」カー身上ノ技芸ヲ目的トセル对人義務ノ証書タルニ止マリ物件ニ対スル貯存ノ文字一モ見ル可キモノ無シ加之相被告青山「トヨ」提供スル丙号証ニ徴スレハ「残金ノ義ハ本月三十日精算ノ上御返済可被下約云々」トノ文詞ニ因リテ見レハ山口長平ニ於テ金五拾円受領シ該領取之トシテ丙号証ヲ交付スル[ト]全時ニ乙号前貸金ニ付テハ別途ノ精算ヲ承諾シタルモノト認定セサルヲ得ス然レハ相被告山口長平ニ於テハ青山「トヨ」ニ対シ乙号証金額ニ付テハ別途ノ精算ヲ求ムルハ格段貸金ノ抵保物ナリトノ旨趣ヲ以テ本訴ニ対スル物件ヲ保留置ク可キ謂ハレ無キモノトス

相被告青山「トヨ」ニ於テハ甲号証ノ売買ヲ認ムル上ハ原告請求ニ係ル物件ハ原告供述スル如ク原告買取[ト]全時ニ原告ヲシテ売買物ノ所有者タラシメタルモノナレハ甲号証拠物ノ如ク該物件引渡ノ手續ヲ速ニ尽サ、ルヲ得サルモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

被告山口長平ハ相被告青山「トヨ」ト共ニ原告請求スル物件ヲ速ニ引渡ス可シ訴訟入費ハ被告共ノ負担トス

明治廿二年五月十七日本所区治安裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡ス者也

判事試補 内 田 良 輔<sup>㊤</sup>

裁判所書記 加 藤 碧 蔵<sup>㊤</sup>

㊤ 「貸金請求ノ訴訟」(名古屋始審裁判所、M22・06・29 判決)

明治 21 年第 57 号

裁判言渡書

原 告 愛知県尾張国名古屋区士族丸藥製造業

杉 山 九平次

代言人同県同国同区平民



依 田 菊太郎

被 告 同県同国同区鈴木トミ方寄留平民娼妓

渡 邊 ツ タ

同 同県同国同区平民雑業

渡邊 忠右エ門

代言人同県同国同区寄留士族

天 野 景 治

引合人岐阜県美濃国海西郡平民農

堀 田 佐 市

代言人愛知県尾張国名古屋区栄町十七番戸士族

友 松 芳 範

右杉山九平次ヨリ渡邊ツタ外一名ニ対スル貸金請求ノ訴訟ヲ審理シ双方代言人ノ陳述ヲ聴クニ

原告代言人陳述ノ要旨ハ曩ニ堀田佐市ナル者貸席営業致居タル節原告ヨリ佐市ヘ資本トシテ千有余円ノ金額ヲ貸与ヘ置キタル処明治十八年ニ至リ佐市ハ商業不景氣ノ為メ廃業致ス場合ニ立至リ同人方ニ抱ヘ置タル娼妓即被告渡邊ツタモ他ヘ寄留換致サセサルヲ得サルニ付ツタガ佐市ニ対スル負債金百貳拾円ヲ本訴甲壱二号証ニ改メ原告ヲ貸主ニ佐市ヲ取次ノ名義ニ致シ之ヲ佐市ヨリ受取り置キタル処期限後返金セサルニ付本訴ヲ提起シタリ尤佐市トツタトノ間ニ他ニ差引計算等アリテ本訴ノ金員ハ既ニ相殺済ミニ相成居ルコト判然タルニ於テハ被告ニ対シ本訴ノ要求ヲ為サス又最初ハ取次ノ義務ヲ以テ佐市ヨリ勸解出願シタルモ後其佐市ヨリ出願スヘキ者ニ非サルヲ覺リ更ニ原告ヨリ出願シタル末不調トナリタル者ニシテ後日原告ノ名前ヲ記入シタル者ニアラサルコトハ甲壱二号証ノ原告宛名カ他ノ墨色及ヒ筆跡ト同一ナルコト並ニ甲四号証ニテ明瞭ナリ又甲壱二号証ヲ受授ノ当時被告ト佐市ノ間差引計算ニ付被告ニ異義ナカリシコトハ引合人小林樗吉ノ陳述ニ依リ明ナリト云フニ在リ

被告代言人答弁ノ趣旨ハ原告ヨリ本訴ノ金員ヲ借用シタルコトナク甲一二号証ハ曩キニ堀田佐吉ナル者席貸営業致ス節被告ツタハ明治十八年五月二日ヨリ同家ニ娼妓出稼ヲ為シ居タル処同年十月佐市ハ廃業シ被告ツタモ他ヘ寄留換致サ、ルヲ得サル場合ニ至リタツハ現今出稼スル鈴木トミ方ヘ転シ佐市ニ対スル負債ヲ該証

書ニ改メ佐市ニ差入レタル者ナリ然ルニ明治廿一年二月佐市ヨリ乙三号証ノ如ク  
 勧解出願及ヒタルモ同人ト被告ハ他ニ相殺スヘキ金員アリテ甲一二号証ノ金員返  
 済ノ責メナキ旨ヲ弁シタル末勧解不調トナリタルニヨリ止ムヲ得ス原告ノ名前ヲ  
 記入シ更ニ原告ヲシテ勧解出願セシメ且本訴ヲ起サシメル者ナリ其宛名ヲ後日変  
 更シタルコトハ乙二三四号ヲ以テ知ルヲ得ヘキニヨリ原告ハ被告ニ対シ訴権ナキ  
 ハ勿論ナリ仮リ[ニ]之レアリトスルモ被告ヨリ甲一二号証ヲ佐市ニ差入ル、当時ハ  
 乙五号証ヲ見当ラサルヨリ止ムヲ得ス佐市カ云フニ任セ精算ヲ為シタルトモ曩キ  
 ニ佐市カ勧解出願ノ当時発見シタル乙五号証ニ基キ精算セハ却テ過金トナリ毫モ  
 義務ナキコトハ乙六号証及全四十二号証ヲ看照セハ明瞭ト云フニ在リ

引合人堀田佐市代言人陳述ノ要旨ハ甲壹号証ハ佐市ト被告トノ間精算ノ当時原告  
 宛名ニシテ受授シ之ヲ被告カ承諾ナリシコトハ引合人小林樗吉ノ陳述ニ依ルモ明  
 ナリ而シテ佐市カ先ニ勧解ニ出願セシハ取次名義ノ誤ヲ以テ原告ニ督促ヲ受ケ原  
 告ニ対シ相済マサルヨリ佐市自カラ出願シ不調トナリタル後本訴ヲ提起スルニ佐  
 市名義ニテ不都合ナルコトヲ覺リ更ニ原告カ出願シタル誤ニテ決シテ後日原告名  
 前ヲ記入シタルモノニアラス又乙五号証ハ佐市ヨリ被告ヘ差入レタルモノニ相違  
 ナキモ該証書ニアル(諸道具衣類代価貳百円ヲ限り万一此余相懸リ候得ハ拙者ヨリ  
 弁償可仕)云々ト約シタルハツタカ出稼スルニ付其當時必要ナル衣類道具代金ヲ貳  
 百円ト見積リ若シ右金額以外ニ及ハズ佐市ヨリ支弁スヘキコトヲ約シタルモノニ  
 シテ出稼中ノ衣類道具代金ヲ約シタルモノニアラス然ルニツタカ娼妓出稼ニ付テ  
 ハ乙六号証ノ衣類代百四拾六円八拾七錢八厘ト乙十二号証中ノ諸道具代金三拾三  
 円五拾錢併セテ百八拾円三拾七錢八厘相懸リ其他ハツタカ營業中買求メタル衣類  
 道具ニシテ乙五号証ノ契約以外ノモノナレハ之ヲ佐市ニ負担スヘキモノニアラス  
 又乙十号証ノ道具ヲ金三拾円ニ見積リ精算シタルコト及ヒ明治十八年七月ヨリ十  
 月マテ花揚代金ト佐市ヨリツタヘ別ニ取替ヘタル金員相殺セシコトハ丙二号証ニ  
 依リ明瞭[ニ]シテ甲一二号証ノ金ハ素ヨリ被告ニ返弁ノ義務アルモノト云フニアリ  
 之ヲ要スルニ其所争ノ点ハ第一原告ハ被告ニ対シ訴権アルヤ否第二甲一二号証ノ  
 金額ハ被告ト引合人佐市トノ間ニ相殺スヘキ金アリテ已ニ被告ハ返弁スヘキノ義  
 務ナキヤ否ヤニ在リトス

依テ各証拠ヲ審閲シ双方ノ弁論及ヒ引合人ノ陳述ヲ聴キ説明スル左ノ如シ

#### 第壹条

被告ニ於テ甲一ニ号証ノ原告宛名ハ引合人佐市カー一旦勸解出願後記入セシコトハ乙一ニ号証及ヒ丙一ニ号証等ヲ以テ明瞭ナリト主張スレトモ丙一ニ号証ハ甲一ニ号証ノ金員完済セサレハ被告ツタノ戸籍ヲ自俣移転セサルコトヲ約シタルモノナレトモツタノ戸籍ニ関シテハ佐市ニアラサレハ為シ能ハサル事物ナリ又乙一ニ号証ハ下書ニシテ果シテ本証書ヲ受授セシ証左ナシ良シ之ヲ受授シタルモノトスルモ鈴木トシニ対スル仮装ノ証書ナルコトハ双方自認スル処ナルヲ以テ此等ノ証書カ佐市一己ノ名義ナリトテ甲一ニ号証ノ原告名前ヲ後日記入シタルモノト云フヲ得ス又取次人カ債主ニ代リテ負債主ニ督促スルコトハ世間往々アルヘキコトナルヲ以テ佐市勸解出願セシコトモ証拠トスルニ足ラス然ルニ甲一ニ号証ノ原告宛名ハ其筆跡登記トモ他ト異ナルコトナキノミナラス該証書ノ執筆者タル小林楳吉ニ於テ原告名前ハ最初ヨリ記載シタルトノ証書ニ拠レハ素ヨリ被告カ承諾上原告ノ宛名アリタルモノト看認メサルヲ得ス

### 第貳条

抑モ乙五号証ハ被告ツタカ明治十八年五月二日ヨリ娼妓出稼ニ付必要ノ衣類道具代金二百円ヲ超過スル時ハ其超過ノ分ヲ佐市ニ於テ支弁スルヲ約シタルモノニシテツタカ出稼中ノ衣類道具代金ヲ約シタルモノニアラス而シテ佐市ニ於テ乙十二号証ノ道具代金ノ内三十三円五十銭分ハツタカ出稼ニ付テノ必要品ニシテ其他ハ必要品ニアラスト云フモ該証中被告ニ於テ取除キタル金円四十銭ノ外ニ三円八十銭ノ毛数通敷物トアルハ夏期ノ必要品ニアラサルヲ以テ尚ホ之ヲ除キ其他ハ総テ必要品ト看做サ、ルヲ得ス左スレハ四月中ノ買入品ニシテ之ヲ區別スル理由ナキニ依リ乙十二号証ヨリ壹円四十銭ト三円八十銭ヲ除キ其余ハ乙五号証ノ契約ニ基キ佐市ノ支弁トスルハ至当ナリトス然レトモ乙七号証ノ衣類代金ハ六月中ノ買求品ニシテツタカ出稼後殆ント三ヶ月ノ後ナレハ之ヲ乙五号証ナル契約中ノ者ト看做シ難シ依テ乙十二号証中ヨリ已ニ差引タル三十三円五十銭ト壹円四十銭及三円八十銭ヲ引キ残ル拾九円三銭一厘ヲ佐市カ看認ムル百八十円三十七銭八厘ニ合算セハ未タ二百円ニ超過セサルニ付乙五号証ノ契約ニ基クモ被告ノ損害トナルコトナシ其他被告ハ返金口ノ内乙十号証ノ道具代金及ヒツタカ花揚代金ニ付異義ヲ唱ト雖モ果シテ被告陳述ノ如キ事実ナルヤ否ヤハ佐市カ曩キニ計算ノ当時所持シタル帳簿ト乙八九十号証等ヲ比照セサレハ単ニ乙号証ト小林楳吉ノ陳述ニ依拠シ曩キノ計算カ果シテ誤謬ト云フヲ得ス加之甲一ニ号証ハ其成立ノ当時乙五号証ノ契

約有無ニ付テ異義アリタルヤ知ルヘカラサレトモ返金口ニ付テハ毫モ異義ナキモノナリ故ニ今更被告カ異義ヲ唱フルハ不当ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

被告ノ抗弁相立タス依テ本訴原告請求ノ金ハ速カニ弁済スヘシ

訴訟入費ハ被告之ヲ負担スヘシ

明治廿二年六月廿九日名古屋始審裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡スモノ也

始審裁判所判事代理

治安裁判所判事 鈴 木 久 良<sup>㊤</sup>

裁判所書記 寺 沢 清之丞<sup>㊤</sup>

㊤ 「廃業調印請求ノ訴訟」(大阪始審裁判所、M22・11・08 判決)

明治 22 年第 508 号

裁判言渡書

原告人大阪府大阪市西区大塚ヂウ方留宿全府全市西区

貸座敷業酒井松之助方全居平民娼妓営業

大 塚 ナラエ

代言人全府全市東区大川町五十三番屋敷寄留岡山県平民

竹 中 鶴二郎

被告人全府全市西区平民貸座敷業酒井松之助後見人

酒 井 萬 助

右大塚ナラエヨリ酒井萬助ニ係ル廃業調印請求ノ訴訟ヲ審理シ原告代言人及ヒ被告人ノ陳述ヲ聴クニ

原告代言人陳述ノ要旨ハ原告人ハ明治廿一年六月中被告人ヨリ金百円ヲ借用シ娼妓トナリ稼金ノ内ヲ以テ之ヲ返済スヘキ筈ニテ全廿二年六月廿日迄ニ花数四千四百九拾七本ノ稼ヲ為シ花売本ハ金拾毫錢ナルヲ以テ其稼金高ハ四百九十四円八十七錢ニ相成リ其金員ハ総テ被告人ヘ委托シアリ而シテ契約証書ニハ稼金ヲ以テ税金ヲ上納シ其残金ヲ原被双方ヘ折半スヘキ旨記載アルヲ以テ原告人カ受取ルヘキ金員ハ二百二十七円八十七錢五厘ナリ故ニ借用金百円ノ義務ハ既ニ果シアルニ付被告人ハ原告人ノ廃業願書ヘ調印ス可キ筈ナルニ被告人ハ謂レナク苦情ヲ唱ヘ調

印ヲ拒ムニ付訴シタル次第ニシテ被告人ニ対シ右調印ヲ請求スト云フニ在リ  
被告人陳述ノ要旨ハ原告代言人ハ花数ハ四千四百九十七本ナリト云ヘトモ花数ハ  
四千九百九十九本ニシテ花壺本ハ十一銭ナレトモ右ハ客付ノ金高ナリ故ニ客付ノ  
金高ヨリ乙第六号証ノ規約第十八条ニ依リ其十分一ヲ店方ヘ其十分四ハ呼揚ケ貸  
座敷ヘ引去リ其十分ノ五ノ内ヨリ税金ヲ納メ残金ヲ被告人ト原告人ト折半スヘキ  
契約ニシテ原告人ノ所得金ハ百二円二銭二厘五毛ナリトス而レトモ原告人ノ衣裳  
損料其他諸費総斗百五十二円三十六銭八厘之レアルニ付被告人ノ貸金ニハ一銭ノ  
入金モ無之ニ付原告人ノ請求ニハ応シ難シト云フニ在リ

因テ証拠ヲ審閲シ証人服部来太郎ノ陳述ヲ聴キ説明スル左ノ如シ

原告代言人ハ原告人ノ稼金高ハ已ニ其負債金百円ヲ弁済スルニ充分ナルニ被告人  
ハ故ナク原告人ノ廃業願書ニ調印ヲ為スヲ拒ムヲ以テ右調印ヲ為スコトヲ請求ス  
ル旨陳述スルト雖モ原告人ノ稼金高ハ四百九十四円八十七銭ナリトスルモ右ハ客  
付花代金ニシテ被告人陳述ノ通り乙第六号証規約第十八条ニ依リ其半額ハ店方及  
ヒ呼揚ケ貸座敷ノ所得ト為シ残半額ノ内ヨリ税金ヲ上納シ其残金ヲ原被双方ヘ折  
半スル契約ヲ原被間ニ取結ヒタルコトハ乙号各証並ニ証人服部来太郎ノ陳述ニ依  
リ明確ニシテ原告代言人ノ陳述ニ誤謬アルコトハ一目瞭然ナリトス故ニ原告人カ  
未タ借入金全部ノ弁済ヲ了ラサル今日ニ於テ被告人ニ対シ本訴請求ヲ為スハ乙第  
一号証第四条ノ約定ニ違背スル不当ノ請求ナリトス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告人大塚ナラエカ被告後見人酒井万助ニ対シ廃業願書ニ調印ヲ為サンコトヲ請  
求スルノ申立ハ相立タサルモノ也

訴訟入費ハ原告人ノ負担トス

明治廿二年十一月八日於大阪始審裁判所公廷始審ノ才判ヲ言渡スモノ也

始審裁判所判事 鶴 見 守 義<sup>㊤</sup>

裁判所書記 池 田 輝 治<sup>㊤</sup>

㊤ 「定約履行ノ詞訟」（広島治安裁判所、M22・11・29 判決）

明治 22 年第 507 号

裁判云渡書

山口県周防国玖珂郡平民貸席業

原告人 竹 中 助十郎

広島県安芸国広島市平民無職業

被告人 吉 川 文 助

山口県周防国玖珂郡全居平民娼妓業

現今広島県安芸国広島市平民吉川文助方滞在

吉 川 サ ダ

右竹中助十郎ヨリ吉川文助外一名ニ対スル定約履行ノ詞訟審理ニ付原被両造ノ陳述ヲ聴クニ

原告人陳述ノ要領ハ被告人等ハ家事向ニ困難シ被告ノ一名吉川サダヲ娼妓営業セシメ其稼金ノ内ヲ以テ返済ナスベキニ付金二拾四円貸呉レ度旨ヲ原告人ニ依頼シタリ故ヲ以テ原告人ハ之レヲ承諾シ明治廿二年九月甲第一号乃至第四号証ヲ取置キ二十四円ヲ貸与シタリ而シテ被告サダハ本年十月一日ヨリ向三ケ年ノ約シテ娼妓営業ヲ始メタルニ同年十一月八日逃走シ種々探索ノ末遂ニ被告吉川文助方ニ寄寓セルヲ発見シタレバ再び営業ヲナスベシト説諭ナスモ聴入レズ然ラバ返金ヲ為スベシト云フモ肯ゼザレバ止ムナク出訴ニ及ビタリ依テ被告等ニ於テ甲第一号乃至第四号証ニ基キ娼妓営業ノ定約ヲ履行スルカ將タ原告ガ訟求ノ金額ヲ返弁スルカ右両様ノ一ヲ履行スベキ様裁判アラシコトヲ乞フト云フニアリ

被告人陳述ノ要領ハ元來原告人ハ娼妓營業中被告サダヲ残酷ニ取扱フヨリサダガ逃走シタル次第ナレバ原告ヨリ定約ノ不履行ヲ招キタルノミナラズサダハ如何シテモ再勤スルコトヲ欲セザレバ到底定約ノ履行ヲ為スコト能ハザルナリ亦タ原告ハ娼妓營業ヲ拒ムニ於テハ返金ナスベシト云フト雖トモ抑モ本案ハ定約履行ノ詞訟ニシテ貸金請求ノ訴訟ニアラザレバ貸金ノ請求ニハ応ズル義務ナシト云フニアリ其所争ノ点ハ被告人等ハ原告人ノ訟求セル二者択一ノ義務ニ応ズベキモノナルヤ否ヤニアリトス

依テ証拠書類ヲ閲シ説明スル左ノ如シ

被告人等ハ娼妓營業ノ定約ヲ履行スルコト能ハザルノミナラズ本案ノ訴名ハ定約ノ履行ニシテ貸金請求ノ詞訟ニアラザレバ返金ノ義務ハ尽クスニ及バザルモノナリト云フト雖モ誤レルノ甚シキモノナリ何トナレバ原告ノ提供セル甲第三号ナル定約書中ニ被告サダガ失踪等ノ不都合アリタルトキハ原告ニ一切損失ヲ来スマジト云フノ文句アルノミナラズ抑モ本案ハ二者択一ノ請求ニシテ若シ定約ヲ履行セザレバ

返金ヲ求ムト云フ次第ナレバ決シテ一ニ定約ノミヲ目的トシタル詞訟ニアラザルナリ依テ貸金請求ノ趣意モ歴然本訴中ニ含有セルモノナリ故ニ被告等ハ定約ヲ履行スルコト能ハザレバ原告請求ノ金額ヲ弁済シ原告ノ損害ヲ償却セズンバアルベカラザルナリ然レトモ原告ノ訟求中娼妓営業税満二ヶ月分ノ請求ハ不当ナレバ一ヶ月半ノ税金ニ減ジ亦タ被告サダ探索入費トシテ三円二十八錢請求セルモ是又タ不当ナレバ実費壹円三十三錢ニ減額スベシ然ラバ原告ノ全請求高ハ二拾九円四拾二錢二厘ナルモ内二円六十六錢五厘ヲ引去リ二拾六円七十五錢七厘ヲ請求スベシ右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

被告人等ハ原告人ヘ金二拾六円七十五錢七厘ヲ速カニ支払フベシ

但シ訴訟入費ハ被告人等ノ負担タルベシ

明治二十二年十一月廿九日広島治安裁判所公廷ニ於テ始審ノ才判ヲ言渡スモノナリ

判事試補 原 誠 一<sup>㊟</sup>

裁判所書記 梅 辻 操<sup>㊟</sup>

43 「貸金請求ノ詞訟」（広島治安裁判所、M22・12・13 判決）

明治 22 年第 492 号

裁判云渡書

広島県安芸国広島市平民仲買商  
原告人 石 原 松次郎  
全県全国全市同居平民無職  
全 伊 藤 リヨウ  
全県全国全市平民無職  
全 藤 井 シ ゲ  
全県全国全市猫屋町  
右代言人 玉 木 市兵衛  
全県全国全市平民旅人宿業  
被告人 松 岡 音次郎  
山口県長門国赤馬関市平民娼妓業  
全 松 岡 ユ ク

広島県安芸国高宮郡

右代人 田 中 貞 介

右石原松次郎外二名ヨリ松岡音次郎外一名ニ対スル貸金請求ノ詞訟審理ニ付原告  
代言人並ニ被告代人ノ陳述ヲ聴クニ

原告代言人陳述ノ要領ハ被告松岡音次郎ハ其養女被告ユクラ原告藤井シゲ方ニ於  
テ娼妓營業為致度旨ヲ申込タルヲ以テ其依頼ニ応ジシゲ方ニ同居ノ上右營業為サ  
シムルノ約ヲ取結ビタリ就テハ被告等ノ乞ニ依リ甲第壹号証ノ如ク金三拾五円貸  
与シタリ而シテ其後ユクハ一種ノ病氣ノ為メ無營業ニテ三四ヶ月ヲ経過スル内同  
人ノ妹虎列刺病ニ罹リ死去シタリトテ四五日間ユクラ戻シクレ候様申来リタレバ  
止ムナク戻シタルニユクハ其後帰来ラザレバ事由ヲ糾シタルニ何料シユクハ既ニ  
馬関ノ或ル貸席ニ於テ娼妓營業ナストノコトナレバ原告等ハ被告音次郎ニ対シ甲  
号証ノ元利金合計五十九円五十錢ヲ返弁ナシ呉レル様催促ナスモ更ニ求メニ応ゼ  
ザルヨリ今回本訴ニ及ビタリト

被告代人陳述ノ要領ハ抑モ原告藤井シゲ宅ヨリ被告ユクラ音次郎宅ヘ復歸セシメ  
タルハ原被告互ノ承諾ニ出デタルモノニシテ原告代言ノ云ヘル如ク一時ノ方便ヲ  
用ヒタルニアラズ且其復歸セシムルニ付テハ明治二十年五月原告等ニ差入レタル  
甲号証ト原告ノ一名ナル石原松次郎ヨリ被告音次郎ヘ差入レタル乙号証ト互ニ相  
殺シ双方ノ手裏ニ存在スルモ之ヲ以テ互ニ請求セザル旨ヲ結約シタルモノナレ  
バ甲号証ハ無効ノ証ナリ故ニ毫モ原告等ノ請求ニ応ズルコト能ハザリト

其所争ノ点ハ甲号証ハ無効ノ者ナルヤ將タ有効ナリヤト云フナリ

依テ各証摺書類ヲ閲シ説明スル左ノ如シ

被告代人ハ甲号証ハ乙号証ト相殺アリタルモノニシテ無効ノモノナリト云フト雖  
モ甲乙両号証ハ果シテ附帶ノ關係アリタルモノナルヤ否ヤハ推知スベカラズ好シ  
附帶ノ關係アリタルモノト仮定スルモ乙号証ノミ消印ナシアリテ甲号証ノ捺印ハ  
歴然存在ナス以上ハ相殺アリタルモノトミルベカラズ何トナレバ原告代言ノ云ヘル  
如ク或ハ原告本人ハ金円ヲ以テ乙号証ヲ済方セシヤモ料ルベカラザルナリ以上  
ノ理由ナルヲ以テ甲号証ハ有効ナル者ト認定ス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

被告人等ハ原告人等ノ請求通り元利金合計五十九円五十錢ヲ速カニ返済セシ  
但シ訴狀訂正前ノ訴訟入費ハ原告等ノ負擔シ訂正後ノ訴訟入費ハ被告等ノ負



担タルベシ

明治二十二年十二月十三日広島治安裁判所公廷ニ於テ始審ノ才判ヲ言渡スモノ  
ナリ

判事試補 原 誠 一<sup>㊟</sup>

裁判所書記 梅 辻 操<sup>㊟</sup>

## 明治23年

44 「貸金催促ノ訴訟」（山口始審裁判所赤間関支庁、M23・01・11 判決）

明治22年第67号

裁判言渡書

原告人広島県広島市平民割烹業

八 幡 シ ウ

代言人山口県赤間関市寄留島根県土族

羽 野 巖 介

被告人同県同市平民野崎辰之助姉芸妓

野 崎 ト キ

代 人同県同市平民雑業

不二村 正 式

右八幡シウヨリ野崎トキニ係ル貸金催促ノ訴訟ヲ審理スル所

原告代言人陳述ノ趣旨ハ被告人ハ他ニ営業ヲ為スコト能ハサルヨリ芸妓営業ヲナシ  
其揚り金高ヨリ諸雑費ヲ引去リ其余ヲ以テ弁金ナスコトヲ約シ女子ノコトナルヨリ  
其借金証書ニハ実父母并実姉ノ連印ヲ為サシメ明治十九年六月金百貳拾貳円ヲ貸  
渡シタルニ明治二十年三月中迄稼キニテ内入金ヲ為シタレトモ爾后姉ウノト窃カ  
ニ蒲崎表ヲ脱シ方今当赤間関市ニ芸妓ヲ営業トシ収益巨多ナルモ其義務ヲ尽サ  
ルニ付起訴シタル旨ナルヲ云テ尚ホ他ニ尅日金拾五円ノ入金ト合金四拾參円七十  
四錢七厘ヲ其返利共消去リ残り元利金百拾八円五拾四錢貳厘返弁受度シ云々被告  
人ノ拒弁ヲ付ケ甲第壹号貳号ノ書証及計算書ヲ提供シ且被告人ハ実母ヲ人証トナ  
シテ喚問セリ被告代人答弁ノ趣旨ハ被告兩人ハ明治十九年六月ニハ十三年六ヶ月  
ノ幼者ニシテ毫モ本訴ノ契約ヲ覚ヘサリシ之ヲ推察スルニ甲号証ハ弟浪之助ノ先

代亡父野崎儀助ガ印影ナルヲ以テ儀助カ生存中借金セシ際ニ差入レタルモノナラン歟連印ノトキウノ父子ノ印影ハ儀助ガ新調シテ自佩ニ一家中ノ姓名ヲ記シ捺印セシニ外ナラス尤モ明治二十年三四月頃儀助ハ一家族ヲ引連レ蒲崎ヨリ小倉ニ帰リタル際ニハ原告人ヘ暇乞ヲナシテノコトナレハ若シ借金アリトセハ原告人ハトキノ廃業送籍ヲ為スヲ拒ム可キ筈ナリ又仮ニ借金アリトスルモ揚代金ニテ相殺済ナラント思フ尤モ掛金アルヨリ甲号証モ残シアルカハ疑フ然ルニ原告訴状ニハ一厘ノ入金タモナキハ不審ナル所審理中入金アル計算書ヲ提供シタリ是レ違算ハナシト雖トモ到底儀助死亡后事実不明ニシテトキハ無能力者ナレハ借金セシコト無之ク以テ原告人ノ請状ニハ応シカタシト云ヒ乙号証ナル戸籍証明書ヲ提供シタリ依テ被告人実母タネノ陳述ヲ聴キ各証拠ヲ審閲シ説明スルコト左ノ如シ

夫レ幼者ハ自己ノ利害得失ヲ監査スルノ能力乏キヲ以テ其自カラ為シタル契約ハ不完全タルヲ免カレスト雖トモ后見人アリテ之ヲ為シタリト見做シ得可キ場合ニ於テハ完全ニ帰ル所ナシト一応ハ看認メサル可ラス如何トナレハ后見人ガ幼者ノ利害得失ヲ監査シテ結約シタルモノナレハナリ本訴甲号借用金証書ヲ閱スルニ借主ハ被告本人即当時拾三年六ヶ月ノ幼者ナレトモ其請人ト云フ名義ニテ実父即自然ノ后見人儀助并実母タネ等ノ連印アリテ被告人ハ儀助ノ印影ニ相違ナカル可キヲ自認シ実母タネカ公庭〔廷〕ノ陳述ニハトキヲ働ラカセテ借金シタル旨夫ガ申居リシコトアリト云ヒ算用ハ済ミタレトモ其証拠ハナシト云ヘリ而シテ其借用証書ガ現ニ原告手中ニ存在スルニ由テ之ヲ觀レハ右実父儀助ナル自然ノ后見人アリテ此債務ヲ結約シ弁済ニ到ラスシテ死亡シタルモノト看認ムルニ於テ十分ナリトス然ハ本訴ノ債務ハ自然ノ后見人アリテ之ヲ約諾シ即完全無瑕ニシテ幼者ニ損害アリシトハ見ル可ラサルヲ以テ其借主本人タル被告人ハ完済ノ記ナキ上ハ殘金弁済ノ義務アルコト勿論ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

被告人ハ原告人請求ノ元利合金百拾八円五拾四錢貳厘ヲ速ニ原告人ニ弁済ス可シ但訴訟入費ハ原告人於テモ最初ハ金百八拾円余ヲ請求シテ審理中変更シタルノ粗漏等アリシニ由テ生シタル入費トシテ金貳円五拾錢ハ原告人自弁タル可シ其殘金拾參円七拾八錢并被告分金九円參拾八錢ハ被告人ノ負担タル可シ  
明治二十三年一月十一日山口始審裁判所赤間関支庁公延ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡ス者也

治安裁判所判事 桑 田 親 五<sup>㊟</sup>

裁判所書記 小 林 隆一郎<sup>㊟</sup>

㊟ 「貸金請求ノ詞訟」（安濃津治安裁判所、M23・01・22 判決）

明治 23 年第 2 号

裁判言渡書

原告 三重県伊勢国庵芸郡平民貸座敷営業

大 森 銀 八

被告 同県同国安濃郡平民当時同郡津市天野さい方寄  
留娼妓営業

田 中 み つ

右代人兼被告同郡平民農業

田 中 富次郎

右大森銀八ヨリ田中ミツ外一名ニ対スル貸金請求ノ詞訟ヲ審理シ原被告双方ノ陳述ヲ聴クニ

原告ハ明治二十一年十二月ヨリ明治二十三年一月二十日提供シタル第二計算証ノ通リ被告兩名ニ追次貸金ヲ為シ領収セシ残額金八円ヲ本訴掲載スル借用証券ニ改正シタル所其契約ノ弁済期限ヲ経過スルモ被告ハ之ヲ弁済セサルニ付勸解ヲ經由シテ本訴ヲ提起シタリト云ヒ被告兩名ハ原告提供スル明治二十三年八月二十日付キ第二計算書中金貳拾七円ハ三度ニ借シタルニ相違ナシ然レトモ個ハ明治二十二年七月七日被告「みつ」カ娼妓廃業セシ以前ニアツテ兩度ニ金三拾三円ヲ原告ニ交付シ最初差入タル証書ハ總テ被告ニ取還シ負債金ハ弁済トナリ出入勘定之ナキモノナリ然ルニ本訴掲載ノ金八円証書ニ被告富次郎ノ実印押捺シアルハ明治二十二年七月「みつ」病氣ノ為メ娼妓営業ヲ廃業シ「みつ」ヲ被告方ヘ引取ルニ際シ原告自俣ニ証書ヲ認メ被告富次郎妻「クラ」ニ富次郎実印ヲ取出サシメス之ヲ押印シタルモノニ係リ被告兩名ハ更ニ弁知セサルモノナリ而シテみつ名下ニ捺印アルモみつニ於テ捺印セサルハ勿論毫モ承知セス又原告ハ第一第二ノ計算書ヲ提出シ貸金アルモノ、如ク主張スレトモ第一計算証ハ娼妓稼料ハ未タ計算シタルモノニ非ス又第貳計算証モ總テ被告カ知ラサルモノニ係リ要スルニ原告ハ本訴証書ニ符合セシムル為メ不実ノ計算書ヲ設ケタルモノナレハ本訴要求ニ応ス可キ義務ナシト云ヒ其

原被告所争ノ要点ハ本訴金八円ノ借用証書ハ原被告双方ノ合意ニ成立セシムルモノナルヤ否ニ在リ依テ各証拠書類ヲ審閲シ原被告ノ弁論ヲ聴キ説明スル左ノ如シ原告於テ本訴ニ掲載シタル明治二十二年七月五日付キ金八円証書ハ被告富次郎代人同人妻「クラ」ノ依頼ニ応シ高楠善ハナルモノニ代筆ヲ頼ミ富次郎名下ニハ「クラ」カ富次郎ノ実印ヲ押捺シ被告「みつ」名下ニハ「みつ」自カラ押印シタルモノナルニ付原被告双方承諾上成立セシ貸金ヲ証明ス可キ証券ナリト供述スレトモ被告兩名ハ負債金ノ残額ナキハ勿論該証書ノ成立ヲ弁知セスト固執シ原告モ其証書ニ押印シタル「クラ」ハ富次郎代人タルノ資格ヲ有シタルコト又「みつ」カ自カラ押印セシ事實ヲ証明シ能ハス要スルニ原告カ口頭無証ノ陳述ニ過キサレハ原被告双方合意上成立シタル証券ト看認ムル事ヲ得ス左スレハ該証書ハ原被告双方間ニ貸借アリシ事實ヲ証明ス可キ証拠ノ効力ナキモノナリ爰ニ於テ本訴原告請求スル金員ハ被告兩名カ曾テ原告ヨリ借入レシ返金ノ滞金ナルヤ否ヲ審案スルニ原告カ貸金ヲ領受セシ残金アリト言ヒ其事實ヲ証明セントスルハ明治二十三年一月二十日提出セシ第二計算書ニ止マリ他ニ之カ事實ヲ徴ス可キ証憑ナシ然ルニ被告兩名ハ該計算書ヲ承諾セス原告モ亦其計算ヲ為シタル事實ヲ明瞭ナラシムル能ハサルニ依リ該計算書ニ於ケル結局被告承認セサル限り裁判上採テ以テ貸金ヲ証明ス可キ証佐ト為スヲ得サルナリ夫レ如斯ナレハ別ニ貸金ノ残額アル事實ヲ原告自カラ証明セサル以上本訴貸金ヲ請求シ得可カラサルモノトス其他原被告双方ノ所争アルモ本案緊要ト看認サレハ特ニ説明ヲ与ス

### 判決

右之理由ナルニ依リ本訴原告要求相立タス

訴訟入費ハ原告負担弁償ス可シ

明治二十三年一月二十二日安濃津治安裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡スモノ也

治安裁判所判事	富 田 滝次郎 <sup>㊞</sup>
裁判所書記	太 田 欽 吉 <sup>㊞</sup>

### ① 明治二十三年第二号訴訟

被告人 田 中 富次郎

一 明治二十三年一月廿一日原告人ヨリ提供シタル上申書并ニ証拠物ハ本案ニ干

係ナキ事柄ニ付別ニ答弁ハ不致候事

右之通り相違無之候也

明治二十三年一月廿二日

田 中 富次郎㊞

② 明治二十三年第貳号訴訟

原告人 大 森 銀 八

- 一 本訴被告ハ高楠善八郎ナルモノ、自分ヨリ依頼シ認メ貰ヒタルモノニシテ被告人富次郎名下エハ同人妻とらカ押印シみつ名下ノ拇印ハみつ自カラ為シタルモノニシテ全ク漸々ヨリ之貸金残金ヲ証書ニ改メタルモノナリ然ルヲ被告人兩名ハ該証ノ生スルヲ知ラス全ク計算相済ミタル旨主張スレトモ被告人等承諾上成立タル証書ニ相違ナシ最モ該証書成立ノ当時ハ富治郎不在ナル旨ヲ以テ同人妻くらカ同人ノ実印ヲ携へ來り代人□契約ヲ為シタルモノナリ然ルト雖トモ別ニ富治郎ヨリノ委任状ハ見留メ不申候事
- 一 みつ者元來姓名□□メ得ルモノナルモ当時書キ能ハスト言ヒ認メサルニ付代書ヲ頼ミタル次第ニ有之候事
- 一 本訴証書之金員ハ本日提供シタル第二計算証之通りニ御座候而シテ被告人ハ其計算証ニ対シ種々苦情ヲ唱へ義務ヲ看認メサルモ該計算証之通り貸渡シタルニ相違ナシ
- 一 右計算証中金五十五錢簀代同八錢「イタコ」代トアル品物ハ自分方ニ在ルヲ全ク預リタルモノニシテ被告言フ如ク代金ノ替リニ受取りタルモノニハ無之候事
- 一 金壹円貳拾錢利子トアルハ元金貳拾円ニ対スル明治廿一年壹貳月ヨリ同廿貳年參月マデノ利金ナレトモ何分之利息ヲ計算シタルヤ申立テ難致元ト壹錢六拾六毛ノ契約ナリシモ之ヲ錯誤シ単ニ壹円廿錢ト書出シタルモノナリ  
又金四拾四錢利息トアルハ貳拾円之内八円請取りタル残金ノ利子ナレトモ何月間ニ何程ノ利息ヲ加ヘタルモノナルヤ申上難ク候事
- 一 証書ニハ金八円ト為シアルニ本日ノ計算残金七円八十五錢トアルハ全ク証書成立ノ当時違算致シタルモノニ有之候事
- 一 本日提供シタル第一計算証ハ被告みつカ自分方ニ移テ稼キタル金高并ニ□払ヒナレトモ不足ヲ生スルニ止マリみつへ払渡ス可キ金員ハ更ニ無之候事
- 一 第一計算証ニ不足金□書金八円ノ内ニ差加ヘサリシハ被告人みつ并ニ同人

母カラノ依頼ニ依リ勘弁シタルモノニ有之候事

右之通り相違無之此上陳述ス可キ事柄并ニ提供ス可キ証拠書類一切無之候也

明治二十三年一月廿日

奄芸郡一身田村平民

大 森 銀 八

③ 明治二十三年第二号訴訟

被告人 田 中 富次郎

同 田 中 み つ

一 原告ヨリ借金シタル金員ハ引合人とら申立テノ通り悉皆払済シ更ニ借金ハ無之  
みつ廃業之節計算相済シ証書ヲモ取返シタルモノナレハ受借金ハ無之ハスナリ

一 本訴原告提供スル請書被告兩人ハ更ニ承知セス富治郎留守中とらカ実印ヲ差  
出シ恐々拇印シタルモノニシテ素ヨリ承知セサルハ勿論借金残額無之モノニ  
付本訴求ニハ応シ難旨候事

一 原告ハ第一第二計算証ヲ提供シ種々苦情ヲ唱レトモ被告等其迄更ニ知ラサル  
コトニシテ娼妓営業金ハ未タ計算ヲ遂ケタルモノニ非ス又本日ノ第一計算書  
ハ不要ニ有之候事

又第二計算書モ更ニ看認メサルモノニシテ不当之廉多ク就中金貳拾五錢簪同八  
錢「イタコ」トアル如キハ其品物ヲ原告人ニ相渡シ出入無之モノナリ又壺円貳  
拾錢并ニ四拾四錢利息トアルモ更ニ計算相分ラス要スルニ原告ハ不実ノ証書ヲ  
借りとらへ押印ヲ求メ夫々符合スル如ク自佯ノ計算ヲ為シタルモノニ有之候事  
以上ノ事情ナレハ被告人等承諾ナキ証書ヲ以テ金員ヲ請求スルモ其求ニハ応  
シ難ク候事

右ノ通り相違無之此上陳述ス可キ事情并ニ提供ス可キ証拠書類一切無之候也

明治二十三年一月廿日

田 中 富次郎

田 中 み つ

④ 明治二十三年第二号訴訟

引合人 田 中 と ら

- 一 明治二十一年十二月中金貳拾七円原告人ヨリ借入レ娘みつヲ娼妓ト為シ原告人方寄留為致其稼キ料ヲ以テ弁金ス可キ約ナリシカみつ病氣ナルニ付明治二十二年三月九日八円同年七月七日貳拾五円ヲ原告ヘ弁金シ明治二十二年七月七日みつヲ連レ歸リタルモノニシテ其節最初差入レシ証書ハ相違シタレハ別ニ借金アル可キ理ナシ而シテ右みつヲ連レ歸ル節原告人ハ少々貸金不足スルニ付夫ノ実印ヲ持チ来レト言ヒシ故夫留守中同人ノ実印ヲ持参シタル所其書面ハ如何ナルモノカ知ラサレトモ原告人カ自カラ夫ノ実印ヲ押捺シタリ故ニ金何程借金トナリシカ更ニ了知セス又夫富治郎ハ毫モ知ラサル事ニ候ハ是又娘みつカ該証書ニ拇印セシヤ否自分ハ存ジ不申候

被告人 田 中 と ら

- 一 原告提供スル証書ヘ自分拇印シタル覚ヘハ更ニ無之又借金モ皆済シタレハ不足ハ更ニ無之候事

右之通り相違無之候也

明治二十三年一月十七日

田 中 と ら<sup>㊟</sup>

田 中 み つ<sup>㊟</sup>

46 「約定金請求ノ訴訟」（東京始審裁判所、M23・05・22 判決）

明治 23 年第 629 号

才判言渡書

原告 東京府京橋区平民芸妓渡世

川元 庄右衛門

右代言人

三ノ家 重三郎

被告 同府日本橋区平民薪炭商

勝 田 磯 吉

同 同人方同居同人娘平民無業

勝 田 カ メ

右兩名代人

松 浦 藤次郎

右川元庄右エ門ヨリ勝田磯吉外一名ニ対スル約定金請求ノ訴訟ヲ審理スルニ

原告代言人陳述ノ要旨ハ明治廿一年六月一日原告ハ被告共ト甲第一号証ノ如キ契約ヲ結ビカメノ芸妓營業ノ為メ種々丹精ヲ凝シ漸ク諸芸ニモ熟練シ營業モ隆盛ニ赴カントスル今日ニ至リ被告ハ突然廢業ヲ申込ミタルニ付キ之亦不得已ヲ以テ其請ニ応ジタリ就テハ甲第一号証第二項ニ記載スル契約ニ基キ雜費金ノ内甲第二号証ノ金貳百三十七圓拾錢ヲ訟求スト云フニ在リ

被告代人答弁ノ趣旨ハ甲第一号証ハ差入タルニ相違無キモ其契約趣旨ヲ按スルニ該号契約第二項ハ違約金ノ罰款ニ過ギズ然シテ該罰款ニ由リ禁止セントスルモノハ被告カメノ芸妓廢業ナレハ之レ即チ背法ノ契約ニシテ無効ナレバ被告共ハ本訴ノ請求ニ応ズヘキ義務無ク尚又仮リニ該契約ハ有効ナリトスルモ該契約書中ニ諸費トアルハ単ニ技芸習熟ニ関スル費用ヲ指スモノナレバ本訴ノ請求ハ不当ナリト云フニ在リ

### 説明

第一 甲第一号契約証ヲ閱スルニ「不得已廢業ナストキハ營業中ノ稼高ヲ不論諸芸御丹精被下候格合ヲ以テ諸費貴殿方ノ計算ニ任セ一時弁金致」トアリ本件場合ニ於ケル如ク期限ノ半途廢業ヲ為ストキハ其以前ノ稼高ヲ没収ス可キコトヲ明言シアルモノト云ハサルベカラズ畢竟之レ違約ノ罰款タルベシト雖トモ契約年限間芸妓ガ異業為ス間敷キコトヲ約スルハ之ヲ背法ノ契約ト為スヲ得ズ果シテ然ラバ此約束ヲ違背シタルヨリ生スル損害ハ被告共ニ於テ之ヲ賠償スルノ責任アルヤ明カナリ而シテ本件被告ハ七年間ノ約定期限ナルニ未ダ二年ニ滿タサル間ニ廢業セルモノナレバ其營業期間ノ稼高ハ該違約ヨリ生スヘキ損害金額トシテ敢テ不相当ニ非ルニ付キ之ヲ原告ニ於テ取得シタル上カメノ為メニ支弁セシ諸雜費ヲ請求スルハ至当ナリトス又被告共ニ於テハ諸費トハ稽古料ノミヲ指スモノト論スレトモ別段此ノ如ク限制シタル文字無キヲ以テ之ヲ採用セズ

第二 然レトモ甲第二号計算書中第一項ノ賄料ノ金額ハ不相当ナレバ一ヶ月ニ付キ金五円宛ノ賄料ニ改シ算スベク又第四項ノ手拭代金ハ他ニ証拠無キニ由リ被告ノ認ムル金拾四圓ニ減少スベク第二項三項ノ計算ハ被告ニ於テ異議無キヲ以テ右四口ヲ合計シタル金円ヲ被告共ヨリ原告ヘ支払フベキモノナリトス

### 判決

被告共ハ明治廿一年六月一日ヨリ廿三年二月八日迄一ヶ月ニ付金五円宛ノ賄料稽古料ニ口合計金卅圓六拾錢及ヒ手拭代金拾四圓ヲ原告ヘ支払フベシ



訴訟入費ハ控訴共ノ負担タルベシ

明治廿三年五月廿二日於東京始審才判所公廷始審ノ才判ヲ言渡スモノ也

判事試補 小 出 柳太郎㊞

裁判所書記 吉 田 春 吉㊞

47 「貸金請求事件」（大阪地方裁判所、M23・07・08判決）

明治 23 年第 355 号

裁判言渡書

原告人山口県周防国吉敷郡平民席貸業

富 村 タ カ

右代言人大阪府大阪市東区今橋貳丁目八十九番屋敷平民

羽 床 脩

被告人富村タカ方同居平民芸妓業

山 田 ム メ

同 大阪府大阪市西区平民芸妓業

生 嶋 ア サ

同 右兩名兼代人アサ方同居平民幫間業

山 田 藤 吉

右富村タカヨリ山田ムメ生嶋アサ山田藤吉ニ対スル貸金請求ノ訴訟ヲ審理シ原告  
代言人及ヒ被告兼代人ノ陳述ヲ聴クニ

原告代言人陳述ノ要旨ハ原告ハ甲第一号証ノ如ク被告三名ノ連印ヲ以テ金百三拾  
円ヲ貸与シ被告ムメカ芸妓業ニ依リ得ヘキ純益ヲ以テ漸次其返済ニ充ツル約ヲ結  
ヒタル処ムメハ開業以来日ナラスシテ原告方ヲ脱走シ甲第一二号証ノ契約ニ違背  
シタルニ付甲第二号証ニ基キ被告三名ヨリ速ニ元利合計百七拾八円七拾五錢ノ返  
済ヲ受度シト云フニアリ

被告兼代人答弁ノ要旨ハ被告ハ金百三拾円ヲ原告ヨリ借受ケ甲第一二号証ヲ差入  
レタルニ相違ナキモ被告ムメハ原告方ニ出稼中種々苛酷ノ取扱ヲ受ケタルニ因リ  
原告方ヲ脱シ被告藤吉方ヘ立歸リタリ爾後藤吉ニ於テハ原告ト示談ノ末原告方ニ  
アルモ第一号証ニ記載セルムメノ所有品ヲ金五拾円ト評価シ之ヲ甲第一号証ノ内

入金ト為シ残額ハ年賦返済ノ約ヲ遂ケタリ然ニ被告ハ原告ノ一時皆済ノ要求ニハ  
応シ難シト云フニアリ

依テ各証拠ヲ審閲シ説明スル左ノ如シ

被告タカハ甲第二号証ノ弁済方法ヲ履行セスシテ原告方ヲ立去リタルモノナレハ  
同証第三条ニ依リ被告三名ハ連帯シテ弁済ノ義務ヲ負ハサルヘカラス而シテ被告  
藤吉ハ年賦返済ノ約ヲ結ヒタリト云フモ全ク証拠ナキヲ以テ採用スルニ由ナシ又  
同証第一条ニ利子ヲ支払フノ明約アルヲ以テ被告ハ原告カ請求スル元利金ノ弁済  
ヲ拒ム可カラサルモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

被告三名ハ原告カ請求スル如ク元金百三拾円ニ本年五月迄ノ利子四拾八円五拾銭  
ヲ添ヘ連帯シテ之ヲ原告ニ弁済ス可シ

訴訟入費ハ被告三名ニ於テ負担ス可シ

明治廿三年七月八日大坂始審裁判所公廷ニ於テ始審ノ裁判ヲ言渡スモノ也

判事試補 遠 藤 忠 次<sup>㊞</sup>

裁判所書記 池 田 輝 治<sup>㊞</sup>

48 「約定金請求ノ事件」(東京控訴院、M23・12・11 判決)

明治 23 年第 672 号

裁判言渡書

控訴人東京府東京市日本橋区平民薪炭商

勝 田 磯 吉

控訴人右全人娘全居平民無業

勝 田 カ メ

右代言人

清 水 弥五郎

被控訴人東京府東京市京橋区平民芸妓渡世

川元 庄右衛門

右代言人

三 家 重三郎

右約定金請求ノ事件ニ付東京始審裁判所カ言渡シタル裁判ニ対シ勝田磯吉外一名

ヨリ控訴ヲ為シタルニ依リ之ヲ審理シ双方代言人ノ陳述ヲ聴クニ其要領左ノ如シ  
控訴人陳述ノ要旨ハ甲第一号証ハ中途ニシテ廃業セシトキハ稼高ニ拘ハラス実費  
ヲ支払フコトヲ約シタルモノナレハ即チ稼高少クシテ実費多キトキハ稼高ト相殺  
シテ其残額ノ実費ヲ弁償スヘキコトヲ定メタルモノナリ故ニ若シ其稼高実費ヨリ  
多キトキハ其實費ニ超過スル所ノ稼高ハ被控訴人ヨリ控訴人ヘ返還セサルヲ得サ  
ルモノトス本訴ノ稼高ハ被控訴人ノ計算ニ依ルモ尚ホ金七百円ナリトスレハ其實  
費ニ係ル甲第二号証ノ二項及三項ノ金額ヲ差引キ残額五百五拾四円零七錢貳厘ヲ  
被控訴人ニ対シ反求ス仮ニ稼高ト実費トノ相殺出来サルモノトスルモ甲第一号  
証ノ諸芸御丹精被下候格合云々トアルニ依リ甲第二号証中ノ稽古料ノ外控訴人ニ  
於テ弁償スヘキ義務ナシト云フニ在リ

被控訴人陳述ノ要旨ハ甲第一号証中ノ營業中ノ稼高ヲ不論諸芸御丹精被下候格合ヲ  
以テ諸費貴殿方ノ計算ニ任セ云々トアルヲ以テ觀レハ控訴人カ中途ニシテ廃業ス  
ルトキハ被控訴人ハ将来得ラルヘキ利益ヲ失ヒ且控訴人ハ違約者ナルヲ以テ稼高  
ハ勿論被控訴人ヘ渡スノミナラス諸芸ヲ稽古セシメタル格合ヲ以テ諸雜費ヲ支払  
フコトヲ定メタルモノナリ故ニ原裁判ノ言渡ハ相当ナルヲ以テ認可アランコトヲ  
請フト云フニ在リ

依テ証拠ヲ審閲シ説明スル左ノ如シ

甲一号証ハ出稼ノ期間廃業等ヲ為サ、ルニ於テハ其稼金高ハ諸費ニ充當シ余剩ハ  
被控訴人ノ所得トシ若シ中途ニシテ廃業セシトキハ控訴人ニ於テ稼金高ニ拘ハラ  
ス諸費ヲ弁償スヘキコトヲ契約セシモノニシテ已ニ控訴人ニ於テ中途ニシテ廃業  
シタル上ハ被控訴人請求ノ金額ヲ弁償スヘキ義務アルハ当然ナリトス然レハ控訴  
人カ其契約ノ趣旨ニ反シ反求ヲ為シ又ハ稽古料ノ外弁償スヘキ義務ナシトノ陳弁  
ハ不当ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

明治廿三年五月二十二日東京始審裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ允當ナルヲ以テ  
之ヲ認可スルモノナリ

訴訟入費ハ控訴人之ヲ負担ス可シ

明治廿三年十二月十一日東京控訴院ニ於テ第二審ノ裁判ヲ言渡ス者也

[東京控訴院]

判 事 長谷川 喬<sup>㊤</sup>

判 事 高 谷 恒太郎<sup>㊟</sup>  
判 事 松 野 篤 義<sup>㊟</sup>  
判 事 石 川 重 玄<sup>㊟</sup>  
判 事 春 日 肅<sup>㊟</sup>  
控訴院書記 宮 本 得 造<sup>㊟</sup>

49 「損料錢請求ノ訴訟」(本所区裁判所、M23・12・18 判決)

明治 23 年第 977 号

裁判言渡書

東京市本所区平民

原告 渡 辺 新三郎

同市深川区渡辺吉蔵方出稼娼妓

被告 亀 田 わ か

原告ニ於テ被告ガ娼妓出稼ノ目見ニ行ク為メ借用致シ度旨ノ申聞ケニヨリ貸シ渡シタリシ書類ノ料錢ヲ請取度旨申立ル損料錢請求ノ訴訟及訊問処被告ニ於テはいや乍ラ横浜ニ連レ行カル、時頼ミモ何モ致サルニ此着物ヲ着用セヨト申聞ケラレ只タ深切ノ儀ト思ヒ居リシ迄ニシテ素ヨリ借用セシ事非ラズト云フ去レハ仮令被告ガ借用ヲ相頼ミニモノト認定スルモ被告ノ身ノ上ヲ顧慮セサルヲ得サルベキ場合ナルニ其实父等ニモ相質サズ猥リニ此被告ニ貸シ与ヘタルハ恩恵ヨリ出テタルトコソ云フベケレ況テ其料錢ノ定メヲ被告ガ承諾シ居ル印証モ之レ無キニ於テヲヤ

判決

原告訴求不相立条此訴訟入費ハ原告負担ス可シ

明治二十三年十二月十八日本所区裁判所公廷ニ於テ此裁判ヲ言渡ス

判 事 安 原 有三郎<sup>㊟</sup>

裁判所書記 後 閑 政<sup>㊟</sup>

50 「立替金請求ノ訴訟」(本所区裁判所、M23・12・18 判決)

明治 23 年第 975 号

裁判言渡書

東京市深川区平民

原告 佐久間文左衛門

同市本所区平民

被告 亀田鉄藏

同市深川区渡辺吉藏方出稼娼妓

被告 亀田わか

立替金請求ノ訴訟及訊問処原告ニ於テハ被告わかノ娼妓出稼ノ周旋ヲわか及ヒ渡辺新三郎ヨリノ依頼ニヨリ横浜ニ同伴シタル入費ノ立替金ノ償却ヲ請求スト云フト雖モ原告ハ被告鉄藏ヨリ相頼マレシモノニ非ラズ又タわかニ於テハ横浜行キノ儀相否ミタレトモ心ナラズ連レ行カレタリシコトナル旨申立ル間原告ニ於テハ品ニヨリ其頼ミ主ノ渡辺新三郎ニ向ヘ之レガ償却ヲ求ムルハ格別ナレトモ此被告両名ニ対シ斯克ノ如ク訴求スルハ其当ヲ得サルモノトス何ントナレハ仮令わかモ新三郎ト共ニ依頼セシモノト假定スルモ右様ノ周旋ヲ為スニ其实父即チ被告鉄藏ノ意旨ヲモ相質サバリシコトナレハナリ況テ被告鉄藏ニ於テハ原告ニ周旋方ヲ依頼セシ儀之レ無シト断言スルニ於テヤヤ

判決

原告訴求不相立条此訴訟入費ヲ原告負担ス可シ

明治二十三年十二月十八日本所区裁判所公廷ニ於テ此裁判ヲ言渡ス

判 事 安 原 有三郎<sup>㊤</sup>

裁判所書記 後 閑 政<sup>㊤</sup>

明治24年

㊥ 「貸金請求事件」（竹原区裁判所、M24・03・30 判決）

明治24年（ハ）第52号

欠席判決原本

広島県豊田郡平民小売商

原告 高山鶴吉

右全番邸全居平民娼妓稼業

被告 後藤タケ

右当事者間ノ貸金請求事件ニ付原告口頭弁論ノ為ノ明治廿四年三月三十日午前第十

一時出頭ノ上被告ヘ明治廿三年五月中金貳拾円貸与シ原告ト全居ノ上娼妓揚代金ヲ以テ徐々ニ返弁受ク可キ契約ノ処被告ハ私擅家出原籍ヘ立帰リタルニ付屢々呼戻スモ更ニ応セス且タ金員モ返弁セサルヲ以テ今回訴訟ヲ提起シタル所以ナリ因テ速カニ請求金返済受度トテ被告ヨリ原告ニ対スル金貳拾円ノ借用証書ヲ提出シタリ被告ハ呼出状送達シタルニ出頭セサルニ付欠席判決言渡アランコトヲ申立タリ当区裁判所ハ原告カ事実上ノ供述ハ被告ノ自白シタルモノト看做シ其請求ヲ至当ナリトスルヲ以テ民事訴訟法第二百四十六条及ヒ第二百四十八条ニ照シ欠席判決スルコト左ノ如シ

原告請求スル金貳拾円ハ被告ニ於テ返済ノ義務アルモノトス

訴訟費用ハ被告負担タル可シ

明治廿四年三月三十日第一審判決言渡ス

竹原区裁判所

判 事 川 北 祐 利<sup>㊤</sup>

## 明治 25 年

52 「貸金請求事件」(半田区裁判所、M25・11・29 判決)

明治 25 年 (ハ) 第 82 号

判決原本

愛知県愛知郡平民席貸業

原告 近 藤 弥 七

同県同郡平民新俳優業

右訴訟代理人

富 藤 幸 吉

同県知多郡成当時同県知多郡寄留娼妓営業

被告 永 田 き く

同県名古屋市平民米商

右後見人 山 田 為 蔵

同県知多郡平民農

被告 永 田 弥 吉

同県同郡平民農

被告 永 田 作太郎

右当事者間ノ貸金請求事件ニ付検事代理司法官試補高木祥二郎立会判決スル事左ノ如シ

被告三名ハ連帯シテ原告ノ請求ニ従ヒ金拾八円六拾九錢三厘ヲ直チニ弁済ス可シ訴訟費用ハ被告ノ負担トス

事実

原告ハ被告きくカ原告ニ対シ娼妓鑑札返上届書ヘ押印請求ノ義ヲ名古屋地方裁判所ヘ起訴シタルニ付甲第九号証ノ貸金弁済残額ト被告きくノ逃亡ニ因リ生シタル費用ヲ自記セシ甲第一号証ノ金拾八円六拾九錢三厘ヲ被告三名連帯シテ直チニ弁済スル様判決ヲ仰ク而テ被告ハ乙第一号証ヲ提供シ以テ甲第一号証ノ錯誤ニ成ル事ヲ主張スレトモ其乙第一号証ハ被告きくノ随意ニ筆記シタルモノニ付原告ハ之ヲ真正ナリト認ムルヲ得ス況ヤ被告ノ請求ニ因リ原告カ提出シタル甲第十号乃至第十三号証ト対照セハ乙第一号証ノ之ト吻合セサリシコトハ被告ノ自供スル所ナルオヤ故ニ原告ハ甲第一号乃至第十三号証ヲ以テ本件ノ事実ヲ慥カメ甲第一号証ノ錯誤ニアラサルコトヲ証明スト云ヒ被告きくハ乙第一号証ヲ以テ甲第一号証ノ錯誤ニ成ルコトヲ主張シ且原告ヨリ甲第十号乃至第十三号証ヲ提出セシメ之ト乙第一号証ヲ対照セハ其事理明白ナル旨ヲ申立而テ其両号証調査ノ結果ハ互ニ吻合セサリシコトヲ認メタリ又甲第九号証ハ承認スルモ其附属契約書ト甲第四号証ノ印判ハ皆ナ自己ノ実印タルモ之ヲ捺押セシコトハナク其他ノ甲号証ハ咸ナ承認セスト云ヒ被告弥吉及ヒ作太郎ハ甲第九号証ヲ認ムレトモ甲第一号証ハ承認セス然レトモ若シ果テ甲第一号証カ被告きくノ錯誤ニ成リシモノニアラスシテ實際甲第九号証ハ借用金及ヒ被告きくカ逃亡ニ因ル費用ノ弁済残リアルトキハ無論被告三名連帯シテ之ヲ原告ニ弁済セサルヘカラサルナリ故ニ乙第一号証ト甲第十号乃至第十三号証ヲ対照シ甲第一号証ノ錯誤ニ成ルコトヲ証明セントス而カルニ其乙第一号証ト甲第十号乃至第十三号証ハ齟齬アリテ符合セサリシコトハ認メタリ以上ノ外仍ホ甲号証アルモ之ヲ認メサルニ付結局原告ノ請求ヲ排斥アリタシト云フ

理由

抑本訴ノ緊要ハ甲第一号証ノ錯誤ニ成ルカ否ヲ判スル一点ニ在レトモ被告カ其錯誤タルヲ証セン為メ提出シタル乙第一号証ハ被告きくノ自記所蔵ニ係ル花山帳ト

題セシ帳冊ニシテ毫モ原告ノ之ヲ承認シタル証左ナキ耳ナラス被告カ其正確ヲ証セントシテ原告ニ提出ヲ求メタル甲第十号乃至第十三号証ノ大福帳ニ対照査閲スルトキハ二者大ニ齟齬スル耳ナラス反テ其大福帳ハ甲第一号証ノ錯誤タラサルコトヲ慥カメ乙第一号証ノ確信スルニ足ラサルコトヲ認メタリ已ニ其甲第一号証ノ錯誤タルヲ觀ルニ足ラサル以上ハ其金額ハ被告三名連帶シテ之ヲ原告ニ弁済スヘキ義務アリト自認シタルニ基キ則テ主文ノ如ク判決スル所以ナリトス

但此以外ニ係ル証拠及ヒ演述ニ就テハ逐一説明ノ必要ナキヲ以テ之ヲ為サス

明治廿五年十一月廿九日

半田区裁判所

判 事 山 本 信 善<sup>印</sup>

(明治大学法学部教授)